

ひまわり通信 26ねん9がつ

～祈り～

今年の夏もあちこちで台風や豪雨、つい先日は御嶽山の噴火、また凄惨な事件など心を痛めるニュースも多く、暗い気持ちになることもあった夏ですが、ひまわり幼稚園では子どもたち、教職員ともに無事に2学期を迎えることが出来ました。保護者の皆様、そして神様に感謝致します。

さて、幼稚園では運動会も近づき、毎日熱心に練習に取り組む子どもたちの元気な声に包まれています。子どもたちは保護者の皆様に精一杯の自分を見てもらおうと一生懸命です。その子どもたちの一生懸命に応えるため、私たち大人も見えないところで懸命に準備しています。この大人の行いは子どもたちの無意識にも必ず届いています。なぜなら言葉で言わなくても、わざわざ態度で示さなくても、立ち居振る舞いや表情といった雰囲気や子どもたちは敏感に感じ取るからです。運動会の準備ひとつにしても、最初は自分の子どものためとした事が幼稚園の大勢の子どもたちの喜びにも繋がっていき、そしてその善い行いはひまわり幼稚園に関わるすべての人が一致し喜びを分かち合うことにもなり、さらには子どもたちへのより良い環境を生み出すことにもなるでしょう。

教会では『立つ』『座る』『跪く(ひざまずく)』という祈りの姿勢があります。『立つ』というのは神様への賛美、注意深く聞くという意味。『座る』というのは神様の心に静かに耳を傾ける事、思いめぐらす意味です。『跪く』というのは神様への熱心なお願いを現すことを意味します。私たちの子どもたちへの思いは目に見えない行為としてこの祈りの姿勢と重なります。“行い”だけでなく、私たちの“思い”もまた全て祈りなのです。

災害や事件など、また子どもが犠牲になる辛いニュースを毎日のように耳にします。口にするものはばかれる程の出来事に怒りを超え悲しくもなります。ですが、私たち大人は決して平和をあきらめず、“行い”と“思い”という祈りを通して子どもたちが本当に安心できる社会を願い努力していきましょう。

園長 福崎

～時間の流れの中で～

子どもたちの園での様子を見ていますと、大人とは違う、ゆったりとした時間の流れの中で生活しているのを感じます。私達大人は、その日の予定や、やるべき日課(仕事)にそって生活しています。例えば、“歩く”という事でいえば、大人は、目的地へ行く為に歩きます。子どもは、スキップをしたり、石ころを拾ったり、穴を見つけて指を入れてみたり、歩く事を楽しみ、目的地へ着く事だけを目指していません。人間としての成長を完了した大人にとって、絶えず変化しながら成長している子どもとの違いを理解できない為「早く！」と要求し、時として育つ力を妨害する事もあります。子どもは、きちんとした時間に刻まれるものではなく、ゆったりとした時間の中で、いろいろな事を体験し自分自身を作る為に緩やかに育っていくのです。焦らせると、結晶しつつある大事なものを失わせてしまいます。

時間を大切にやりやりますと、0歳～3歳では、秩序感や自然の法則に従って生きる力が形成され、生涯の土台となるものが育ちます。そして、3歳～6歳の時期に自分で選んで、選んだものを自分の知性を使い、集中してやり遂げる経験を何度も積み重ねる事により、「自ら学ぶ力」が身に付きます。私たち大人は、子どもとの時間が違う事を理解し、急がず、焦らず、幼児期にゆったりとした時間の中で過ごす事を大切にしたいです。また、その様な生活を過ごす事が出来る環境が、幼稚園だと思います。

主任 福留



～科学館へ出掛けました～

A組全員で科学館へ出掛けました。入館と同時に実験ショーが始まっており、タイミングよく見る事ができました。学芸員の質問に元気よく反応するひまわりの子どもたちで会場は盛り上がり、爆発の実験でロケットが高く飛び上がったときには大歓声でした。この後「宇宙の科学」のコーナーを見学しましたが、前日の延長保育で太陽系の話を知っていた子どもたち、興味津々に惑星に手を当てたりしながら、「すい、きん、ち、か、もく、どつ、てん、かいおうせい」を声高らかに響かせていました。

3階の「地球の科学」のコーナーで一人の子どもが「先生、桜島の中が見えるんだよ。」「もうすぐドロドロしたの見えるよ。」「ドロドロしたの何?」「桜島のアレヨ。」「アレって?」「ドロドロが出てきて桜島になったってわけ。」「真剣に語ってくれる眼差しについて見とれてしまいました。

子どもたちの知的好奇心、どんなものでも知ろうとする探索能力の果てしない広がりを感じた1日でした。今回の園外保育は、モンテッソーリ教育の文化教育のひとつとして、延長保育と繋げた上で計画致しました。文化教育については、追々伝えていきたいと思ひます。

A組 藤田



～体育あそび～



幼児期を「家」の建築に例えるならば、建物を建てる前の基礎工事の時期に当たります。豪華な家具、調度品で外見を飾り、周りからうらやましく思われるような立派な家でも、この基礎工事を怠ると台風、地震のような災害に遭遇したとき、簡単に壊れてしまいます。人間の場合も同じで、どんなに豪華な服や装飾品で着飾ったとしても、体を支える基礎体力、運動能力は勿論、精神的な面でも「生きる力」の基本ができていないと、少しの失敗や困難ですぐに挫折してしまうことでしょう。

乳幼児期は人生80年の中で「神経系」いわゆる「脳」が急激に発達します。そのことを踏まえ、楽しく体を動かしながら、脳の中にシナプス(動きのバイパス)をできるだけたくさん作ってあげること重点を置き、色々な動きや遊びを体験する事が大切です。但し、動きができた、できないにこだわる必要はまったくありません。大切なのは「体を動かすこと」を楽しみながら、様々な動きをそのなりに体験することなのです。繰り返しやってみることで、脳の中のシナプスが増え、記憶され、人としての基礎工事が成されていくのです。体を動かすことは、人としての本能です。保護者の皆様も一緒に楽しく遊びましょう。

体育指導 福山先生



～夏休みの子どもたち～

なかよし組で

家で



「大型積み木で何作る?」「船?...基地?」「エー?」女の子は家を作りたいみたい。



「わたしより高い!」Aさんと一緒に積み重ねたピンクタワーと茶色の階段



ほくの宝物「蝶のぬけがら・カブトムシ」やっぱほくは虫が好き!

夏休みは、水を怖がる娘が少しでも楽しく遊ぶ事ができればと思いプールに行きました。はじめは、親にしがみつき「いやだ...いやだ」の繰り返し。小さな水のすべり台も「すべりたくない...帰りたい...」半泣きの娘と一緒にすべってみると泣きながらも「楽しい...もう一回...」何度もくりかえしすべるうちに「ひとりりでやってみる」と娘から嬉しい一言が。顔に水しぶきがいっぱいかかりながらも何十回もすべっていました。先日夏休みいっばん楽しかったことを聞いてみると「プールでいっぱい遊んだこと」と言ってくれて親子そろって思い出深い夏休みになりました。

★モンテッソーリ教具って何?★

Vol.6 幾何タンスとカード



幾何タンスはさまざまな図形を見て触って認識するお仕事です。四角形、円形、三角形や多角形、変形などの図形が6段の引き出しに整理されています。はじめは図形のふちをなぞり、触覚で確かめて、どのようなものか把握します。次第に視覚だけでどの図形がどこか分かるようになると、「このカードと同じ図形はどこかな?」と図形とカードを一致させていきます。カードは3種類あり、全部塗られているカード、太線、細線のカードとなり、次第に抽象化されていきます。カードと図形が合うと、「ぴったりだった(*^^*)」ととても嬉しそうな笑顔が見られます♪



学校法人カトリック学園 ひまわり幼稚園

〒891-0113 鹿児島市東谷山3丁目31-13 TEL:099-268-2340 FAX:268-2333